

日本川崎病学会会員各位

免疫グロブリン製剤の品薄状況について

先般、効能追加の承認取得による需要拡大に伴い国内の免疫グロブリン製剤の供給が困難になる可能性があるとの情報が医療機関に提供されました。

(<https://www.jbpo.or.jp/> 『医療関係者の皆様』欄をご覧ください。)

これを受けて日本川崎病学会では製薬企業から現況と対応について聴取を続けています。その結果、7月以降、他疾患、特に内科領域の疾患において代替製品が供給可能になる見通しであり、当面、川崎病急性期治療として現在承認されている国内3社の免疫グロブリン製剤が品薄になる可能性は低いとの認識に至っております。

本学会は今後も製薬企業から供給体制についての情報収集を行い、状況が変化した場合には会員の皆様に速やかにお知らせ致します。

以上の状況を御理解の上、御対応下さいますようお願い申し上げます。

令和元年7月

日本川崎病学会会長

高橋 啓